

三重県史

通史編

近現代 2
(上)

目次

口 序 凡例
口 序 凡例

第二部 現代三重への転換期

概況 県人口の推移

一九二〇年代以降の県人口／郡市別人口と都市化の進行

第一編 転換期三重の政治・行政

第一章 第一次大戦後の政治・行政

第一節 大正デモクラシー状況下の県政

一 衆議院選挙と政党支部

3

8

8

護憲運動から政党内閣へ／一九一五・一七年の衆議院選挙／原内閣登場と政友会復活

二 二大政党時代へ

第二次護憲運動／政友・民政の二大政党へ／民政党三重県支部結成

三 普通選挙実施と二大政党

理想選挙運動／第一回衆議院普通選挙／第二回衆議院普通選挙

第二節 都市計画法の実施

一 都市問題の発生と都市計画法

都市計画法制定以前の都市整備／都市計画法の制定と適用

二 都市計画の始動

計画区域指定／街路計画と地域指定

第三節 県政と県会

一 第一次大戦前の県政と県会

歴代知事と県政概況／県政同志会多数下の県会

二 第二次大戦後の県政と県会

インフレ下の県政／民力涵養と経済緊縮運動／政友会の復活

三 普通選挙と県政

府県制改正と自治の拡大／地方議会での普通選挙

第四節 財政

一 三重県財政の構造

三重県歳出／三重県歳入と県税／土地関係税と商工業税

二 市町村財政

市町村歳出／市町村歳入

三 諸税負担

税負担の増加／地方債の負担

第二章 昭和恐慌期・戦時体制期の政治・行政

第二節 昭和恐慌下の三重県政

一 政党政治の展開と後退

1 昭和恐慌と政党政治の後退

昭和恐慌と失業救済／時局匡救事業／満州事変と政党政治の後退

2 国体明徴運動と選挙粛正運動

軍部の政党攻撃／選挙粛正運動と政友会の激減／二・二六事件から日中戦争へ

二 昭和恐慌期の県政と政党

1 恐慌期の県政の課題

54	1 恐慌期の県政の課題
54	二 昭和恐慌期の県政と政党
51	2 国体明徴運動と選挙粛正運動
47	1 昭和恐慌と政党政治の後退
47	一 政党政治の展開と後退
47	二 昭和恐慌下の三重県政
45	三 諸税負担
41	二 市町村財政
37	一 三重県財政の構造
37	第四節 財政
35	三 普通選挙と県政
30	二 第二次大戦後の県政と県会
27	一 第一次大戦前の県政と県会
27	第三節 県政と県会
20	二 都市計画の始動
17	一 都市問題の発生と都市計画法
17	第二節 都市計画法の実施
14	三 普通選挙実施と二大政党
11	二 二大政党時代へ

緊縮財政への転換／伊勢大橋／県内の時局匡救事業／直轄国営事業
 2 県会議員選挙 59
 一九三一年の県会議員選挙／選挙肅正と一九三五年の県会議員選挙

第二節 戦時体制下の三重県政 62
 一 国家総動員体制 62

1 日中戦争と国家総動員 62
 日中戦争の長期化／三重県精神総動員運動

2 大政翼賛会 65
 翼賛体制の成立／大政翼賛会三重支部発足

二 戦時体制期の行政と議会 67

1 行政の統制と翼賛選挙 67
 行政の集権化と官僚統制／翼賛選挙（国政）／翼賛選挙（地方議会）

2 本土決戦体制 70
 米英蘭との開戦／三重県の決戦体制／敗戦へ

第三節 都市計画（軍都計画） 74

一 都市計画事業の実施 74
 二 軍需工場の立地と土地区画整理 75
 新興工業都市四日市の都市計画／鈴鹿市の誕生と都市計画／津市の新興都市建設区画整理／松阪市の新興都市建設区画整理

三 国民精神と都市計画 80
 宇治山田市都市計画から神都計画へ／神都計画の実施

第四節 財政 85

一 恐慌下の財政 85
 1 昭和恐慌と財政難 85
 大幅な税収減／緊縮財政と財源確保

2 時局匡救事業と財政構造の変化 88
 高橋財政と時局匡救事業／県財政の構造変化

二 戦時下の財政 90

1 戦時体制への突入と地方財政改革 91
 臨時地方財政補給金制度／一九四〇年地方税制改革

2 戦時下の三重県財政 92
 県財政の膨張／県財政の歳入・歳出構造

第二編 転換期三重の産業・経済

目 第一章 第一次大戦後の産業・経済

産業概況と施策

- 一 産業活動の状況 98
- 二 県勸業協会設立と博覧会 99
 - 三重県勸業協会の活動／宇治山田市で二つの博覧会

第一節 第一次大戦後の農林水産業

- 一 地主制度の動揺 103
 - 地主小作関係の変容／県内の実態／一志郡の小作慣行と小作料減免問題
- 二 農業の合理化と基盤整備 106
 - 地主による産米改良／農事試験場等の品種改良／改良農具の導入／土地改良の進展／勸業（勸農）施策の財政的基盤／蚕糸業の発達と蚕業教育／稲作・畜産・茶業の改良／副業の奨励／農業生産を組織的に支えた農会／農家組合の設置

三 公有林野の整理統一

整理開発の方針／整理統一の展開過程

118

四 漁船の動力化と一九二〇年代の水産業

122

漁船の動力化と漁法の進展／県内の漁船動力化と地域性／海面養殖業／海外出稼ぎと漁村労働力

第二節 第一次大戦後の工業

一 一九二〇年代の地域産業

133

1 県内工業の部門別・生産物別動向

133

部門別工場数と従業者数／主要工業物生産価額／一九三〇年の郡市別生産価額

2 地域産業の変貌と確執

138

陶磁器工業／桑名の金属工業／造船業／セメント工業／電力会社の統合

二 繊維工業

143

1 綿糸紡績業等の状況

143

東洋紡本社移転と県内工場の増設／その他県内の綿糸業／県内綿織物会社の増加／メリヤス・足袋・タオル・製網業／毛織物工場の設置

2 製糸業と人造絹糸工業

149

好況な製糸業／製糸工場新設と経営者の変更／人造絹糸の工業化と県内会社

3 第一次大戦後の繊維工場労働者

155

四日市市の紡績労働者／製糸工女の時間と賃金

第三節 第一次大戦後の商業

159

一 商業会社増加と公設市場・商工会議所 159

 商業戸数・会社の概況／公設市場の設立と経営／商工会議所法と宇治山田商工会議所設立

二 銀行の動きと無尽会社の設立 163

 百五銀行・四日市銀行への合併／その他の銀行の統廃合・創立／県内の貯蓄銀行／無尽会社の誕生と展開

三 一九二〇年代の金融恐慌 171

 第一次大戦後の銀行動揺／金融恐慌と県内事情

第四節 第一次大戦後の交通・通信 175

一 道路交通の発展と乗合自動車 175

 自動車取締令と道路整備／乗合自動車の展開／貨物自動車の増加／紀北地域の索道

二 内国通運株式会社の変貌と鉄道貨物取扱 181

 内国通運から国際通運へ／県内の鉄道貨物運送会社と実態

三 県内私設鉄道の消長と電化 183

 勢江鉄道誘致運動の高揚／三岐鉄道の誕生／志摩電気鉄道の創設／朝熊登山鉄道の設立と営業開始／路線延長と電化の動き／中勢鉄道と安濃鉄道の営業悪化

四 紀勢鉄道敷設運動と紀勢東線の建設 192

 紀勢線の敷設決定／鉄道政策に翻弄された紀勢鉄道／紀勢東線の建設をめぐる動き／紀勢東線

五 海運による輸移出入と港湾の状況 198

 一部開通とバス路線の縮小

 四日市港の定期航路と港湾設備／四日市港の輸移出入／鳥羽港入船と輸移出入／津港と神社港

六 通信網の拡大 205

 郵便・小包の増加／電信・電話の発展

第二章 昭和恐慌期・戦時体制期の産業・経済

産業概況と振興策 210

一 県内産業と産業別人口 210

二 各種試験場等の整備と産業振興策 212

 県各種試験場の整備と変遷／訓育所等設置と技術者の養成／県商工奨励館と中央商工相談所／共進会・博覧会の開催

第一節 農林水産業 223

一 昭和恐慌期の農業 223

 農村の窮乏と経済更生運動／自力更生と農事改良／施肥の合理化／農村経済の状況と対応／副業への取組／農家組合の強化と農事実行組合／自作農創設維持と土地買戻し

二 戦時体制期の農業 236

農業統制と農業指導方針／肥料統制と自給肥料増産／農機具の配給割当制／米穀の流通統制／副業の強化／農家組合整備と部落協同体制の確立／農業会の設立

三 林業と山村の不安 243

第一次大戦の余波／世界恐慌と林業政策／山村・木材業界の疲弊

四 木材統制と林業 248

統制経済への移行／生産統制・配給統制へ

五 昭和恐慌期の水産業 251

昭和恐慌と県内の水産業／漁村の疲弊／時局匡救事業と経済更生計画／「コラム①」太平洋と英虞湾を結ぶ深谷水道

六 戦時体制下の水産業 256

経済的苦境に立つ沿岸漁業／漁業組合連合会と漁業組合の展開／県内の漁業と漁民生活

第二節 工業 264

一 一九三〇～四〇年代前半の県内工業の動向 264

1 昭和恐慌と工業 264

昭和恐慌の影響／港湾修築と工場誘致

2 重工業誘致と鉱山開発 267

吉田四日市市長の重工業誘致論／鉱山の開発／上野町での工場誘致

3 経済統制・資源動員と企業整備 269

紀州鉱山での増産／電力統制と日本発送電・中部配電／企業整備と工業組合の改編／金属回収と代用品生産

二 昭和恐慌と繊維工業 273

1 県内綿業の状況 273

県内の綿糸紡績工場／綿織物工場とスフ応用製織／メリヤス・タオル・製網業

2 県内羊毛工業の発展 279

毛糸紡績業の増加／毛織物・毛交織物工場

3 県内製糸業と人絹織物業 283

製糸価額下落と各製糸場の状況／人絹織物業の活気

三 戦時体制下の繊維工業 287

1 県内綿・羊毛工場の再編成と転換 287

綿紡績・羊毛工業等のブロック統合／県内紡績・羊毛工場等の転換

2 蚕糸業統制と県内製糸工場の状況 292

蚕糸業統制と繭短繊維工業／日本蚕糸製造会社傘下と転換工場

3 原料輸入の制限と労働者不足 295

輸出入品等臨時措置法と四日市港／工場管理と労働者不足

四 戦時体制下の重工業 298

1 軍需工場の進出 298

第二海軍燃料廠と民間企業の進出／海軍工廠と軍都鈴鹿／津海軍工廠と地下工場／軍需工場の建設 298

2 平和産業の軍需転換 302

繊維工場の軍需工場化／疎開工場

第三節 商業

一 恐慌下の県内商業状況 309

商業・工業組合法による県内組織／県商工会規則の制定／県物産販売幹旋所の設置／地方百貨店と大門百貨店の開業

二 戦時期の商業

商店法施行と県内の事情／商業奉仕委員・商工更生委員／企業整備令と県中小工業再編成協議会／県商工経済会と商工組合

三 四日市銀行の休業と再生

四日市銀行の休業／四日市銀行再生と三重銀行への改称

四 恐慌・戦時下の県内銀行

低金利政策と銀行の債券投資／県農工銀行から勸業銀行へ／金融事業整備令と県内銀行

五 貯蓄銀行・無尽会社の県内状況

三重共同貯蓄銀行の吸収／無尽会社の合併

第四節 交通・通信

一 道路交通網の整備と省営バスの開業

伊勢大橋・熊野大橋の架橋と道路改修／矢ノ川峠の改修／省営バスの開業

二 バス事業の統合と戦時統制

昭和恐慌期の乗合バス／戦時統制と三重交通の誕生

三 紀勢東線の延長と名松線の建設

紀勢東線の延長と工事の中断／名松線の建設と延長問題

四 鉄道の統廃合と近畿日本鉄道の誕生

伊勢電の営業不振／参宮急行電鉄の設立と路線拡張／関西急行鉄道から近畿日本鉄道へ／三岐鉄道の統合拒否／軌条等の撤去転用

五 四日市港の貿易と海運の衰退

輸入中心の四日市港の貿易／綿花から羊毛の輸入港へ／県貿易協会の発足と貿易統制／四日市港修築工事と港湾運送業の統合／県内海運の変動と衰退／船舶の戦時徴用と戦争被害

六 通信網の変容

郵便取扱いの変更／電話器の切替え

次 第三編 転換期三重の教育

目 第一章 第一次大戦後の教育

第一節 幼児教育と小学校教育の進展

一 幼児教育

幼稚園令の公布／保育所（託児所）の成立

二 小学校教育

義務教育費国庫補助運動と大瀬東作／〔コラム②〕大瀬東作の社会的自覚とその後の顕彰／県内の新教育運動と教育実践

第二節 中等教育の拡大

一 中学校の増設・移管と諸相

県立中学校の増設要求／増設中学校誘致合戦／町立中学校設置と県立移管／私立中学校・各種学校

二 中等教育と大正デモクラシー

中等教育の概念／全国中等学校野球大会／自由主義的思潮と中学校教育

三 高等女学校の整備と充実

郡制廃止と高等女学校の移管／各女学校の充実／〔コラム③〕県内女学生のファッション

四 師範学校の拡充

師範学校の改善／三重県師範学校の改革

五 実業教育機関の整備

実業教育の発展／水産学校・蚕糸学校／工業学校・商業学校／郡制廃止と乙種農学校／実業補習学校の整備／農業補習学校教員養成所

第三節 高等教育の発達

三重高等農林学校の開設／三重高等農林学校の特徴／神宮皇學館の発展

第四節 社会教育の展開

臨時教育会議と社会教育方針／青年組織の進展と青年会の結成／男子少年団の結成／青年訓練所の設置／女性諸団体活動の進展／地方図書館の発展

第五節 障がい児教育の進展

三重盲啞学校の県立移管／県立盲啞学校と神都訓盲院／学業不振児・身体虚弱児の教育

第二章 昭和恐慌期・戦時体制期の教育

第一節 幼児教育と小学校教育

一 幼児教育

恐慌期の幼稚園教育／託児所の普及／戦時下の幼稚園と戦時託児所

目次	410
一 幼児教育	410
二 小学校教育	366
三 中等教育の拡大	372
四 師範学校の拡充	381
五 実業教育機関の整備	382
三 高等女学校の整備と充実	377
二 中等教育と大正デモクラシー	375
一 中学校の増設・移管と諸相	372
二 小学校教育	366
一 幼児教育	364
第一章 第一次大戦後の教育	364
第二節 障がい児教育の進展	406
第四節 社会教育の展開	394
第三節 高等教育の発達	390
第五節 障がい児教育の進展	406
第二章 昭和恐慌期・戦時体制期の教育	410
第一節 幼児教育と小学校教育	410
一 幼児教育	410

二 恐慌期の小学校教育	412
貧困児童就学奨励と学校給食／劳作教育実践と稲森縫之助／郷土教育の実践と教化村指定／生 活綴方教育の進展	
三 国民学校の成立	420
教学刷新体制と国民精神文化講習／国民学校発足と錬成教育／学童集団疎開	
第二節 中等教育	427
一 中等教育制度の改革	427
中学校制度改革／受験準備批判と入試改革／中学校廃止論／一種・二種制と作業科／教練と軍 事演習／体育・武道の奨励と統制	
二 戦時下の中等学校	433
中等学校令と年限短縮／商業学校の転換と各種学校／中等学校入試改革／滑空訓練／興亜教育 と大陸見学旅行／教練の強化と野外演習／集団勤労作業／学校報国歌隊／戦時学徒動員と学校工 場化／三重海軍航空隊「予科練」	
三 高等女学校	444
恐慌期の高等女学校／戦時下の高等女学校	
四 師範学校	447
恐慌期の師範学校／戦時下の師範学校	
五 実業教育の展開	449
農学校の整理と女子実業学校／志摩水産学校の発展／商業・商工学校の新設／神風義塾と農民 道場／「コラム④」奥鹿野の全村教育／実業補習学校の拡大と課題／公民学校と高等公民学校 ／青年学校の発足／青年学校の義務化／青年学校教員養成所・青年師範学校	
第三節 高等教育	462
三重高農と拓殖訓練所／皇學館の大学昇格／県立医専の発足／学徒出陣	
第四節 社会教育	467
一 昭和恐慌期の教化動員体制	467
教化総動員運動の開始と特質／社会教育行政の確立と教化運動／経済更生運動と全村教育	
二 青年団と女子青年団	471
青年団活動の衰退と少年団の組織化／女子青年団の編成／青年団の変容／青年団の終焉	
三 女性団体	476
大日本連合婦人会と県婦人連盟の発足／愛国婦人会と国防婦人会／三婦人団体の統合	
四 図書館の発展	479
県内図書館の増加／県立図書館の設置と戦禍	
五 スポーツの発展と組織化	483
県体育協会の発足と運動団体の設立／オリンピックと明治神宮大会出場選手／「コラム⑤」オ	

第五節 障がい児教育

リンピック選手山本定子
就学奨励規程と盲聾教育の充実／義務制への動きと学校の閉鎖／少年教護法と国児学園

489

第四編 転換期三重の文化

第一章 第一次大戦後の文化

第一節 新聞・雑誌・ラジオ

新聞雑誌の拡大／ラジオ放送の開始

494

第二節 文芸界

一九一〇～二〇年代の文学／一九三〇年前後の文学

497

第三節 演劇・映画

一 演劇活動と劇場

歌舞伎／新派／喜劇／新劇・民衆劇／義太夫・浪曲／奇術・寸劇／地芝居の衰退

501

二 映画の上映と製作

県内最初の上映／県内ロケ地／衣笠の映画界入り／松阪・山田時代の小津安二郎／小津監督の

507

作品と戦争体験

第四節 民衆芸能（伊勢音頭）

広く歌われた伊勢音頭／伊勢音頭の盛衰

521

第五節 美術・工芸

一 県内出身画家の活躍

日本画／洋画

527

二 万古焼と県内彫刻・デザイン

万古焼の二つの流れ／彫刻家橋本平八／県出身のデザイナー

530

第六節 音楽文化の活性化

新教育運動による音楽教育／音楽文化の多面化

533

第二章 昭和恐慌期・戦時体制期の文化

第一節 新聞・雑誌・ラジオ

新聞の統制／翼賛団体と出版の統制／ラジオの普及・統制

535

第二節 文芸界

横光利一／中谷孝雄／北園克衛／プロレタリア文学とその取締り／長谷川素遊と竹内浩三

539

第三節 劇場・演劇・映画……………545

一 演劇活動……………

戦時下の演劇状況／移動演劇／移動演劇のタベとその影響／奉納能・狂言の休止

二 映画人と映画事情……………

ソータロ―若き日の夢／映画学徒・竹内浩三／戦時下の映画事情／映画法の制定と取締りの強化／映画館の戦争被害

第四節 民衆芸能……………558

国策に沿う伊勢音頭活動／新民謡のレコード化／盛んだった新民謡の創作

第五節 美術・工芸……………564

一 県内出身の画家……………

日本画／洋画／銅版画家

二 陶芸家……………

半泥子の陶芸／伊賀焼と佐那具陶磁器研究所

第六節 音楽文化の多面化……………572

表現する音楽から鑑賞する音楽へ／戦後の音楽活動への布石

第五編 転換期三重の生活と社会

第一章 第一次大戦後の生活と社会

第一節 「職業婦人」と女性教員……………578

女性有業者の動向／女性教員の増加と女教員大会

第二節 社会運動の中の青年……………584

一 大正自由主義と青年……………

南紀の「新しき村」／師範学校同人誌事件と修養団

二 社会運動の高揚と青年……………

水平社運動と青年／社会主義運動と青年

第三節 米騒動と社会政策の開始……………590

米騒動の発生とその背景／三重県内の米騒動／社会政策の本格的開始

第四節 水平社運動の開始……………595

水平社創立前史／平等会から水平社／初期水平社の運動／水平社運動の発展

第五節 農民運動……………600

小作争議の開始／日本農民組合支部創立／小作争議戦術の転換／恐慌下の新戦術

第六節 労働運動の発展

一 第一次大戦後の労働者の状態

業種別工場と職種別労働者数／一九三〇年の工場寄宿舎と労働者

二 労働組合の誕生と発展

労働組合組織の誕生／全協支部の組織と弾圧

第七節 無産政党運動

『愛国新聞』と政治運動への参加／松阪社会思想研究会／町村会議員への進出／労農党支部の

結成／県会・衆議院選挙に立候補／運動の急進化と弾圧

第八節 朝鮮人問題

朝鮮人の三重県への渡航／木本町朝鮮人虐殺事件（木本事件）／一九三〇年頃の朝鮮人団体

第九節 衛生医療

一 伝染病の流行と対策

スペイン風邪の県内流行／結核予防法と県協会の設立

二 医師会制度の強化と病院施設の拡充

医師法改正と県内医師会／病院の増加と体制充実／特徴的な病院の開設

三 人口転換と墮胎問題

一九二〇年代の人口動態と産児制限運動／政府の人口対策と墮胎罪体制／一九二〇年代の墮胎

摘発事件／一九三〇年代の墮胎摘発事件

第十節 災害

一 風水害・旱害・霜害

流域別水害と罹災救助／一九二〇年代の風水害／旱害と伊賀地域の開墾助成願／桑園・茶園の

霜害

二 地震

関東大震災と三重県の対応／その他の地震

三 火災と消防組

一九二〇年代の主要な火災／消防体制とポンプの充実

四 交通災害と海難

列車転覆事故／乗合自動車等の事故／民間飛行機事故捜索活動／数多くの海難事故

第十一節 中南米への移民

移民先の転換―アメリカから中南米へ／ブラジル移民の急増と排日の激化／「コラム⑥」移民

排斥と親善人形大使／三重県からの対中南米移民

第二章 昭和恐慌期・戦時体制期の生活と社会

第一節 農民運動

- 一 昭和恐慌期の農民運動 674
 - 小作人組合の急増／小作争議と小作調停／全農支部の運動／全農支部の小作調停事例／失業者同盟
- 二 戦時体制期の農民運動 678
 - 農村労働力の供出／小作人組合と小作争議・調停／全農の解体と翼賛体制と一本化
- 第二節 労働運動 683
 - 一 昭和恐慌期の労働運動 683
 - 労働者の状態／労働者の失業／労働組合と労働争議・調停／愛国主義鉄道従業員組合の争議
 - 二 戦時体制期の労働運動 690
 - 労働者の状態／労働動員計画と国民登録制／敗戦間近の根こそぎ動員／労働組合と労働争議／産業報国会
- 第三節 部落問題 697
 - 一 恐慌期の部落問題 697
 - 被差別部落の状況／水平社運動／融和政策と融和事業の広がり
 - 二 戦時体制期の部落問題 701
 - 被差別部落の状況／戦争による融和事業の縮小／水平社の転向と戦争協力
- 第四節 無産政党 705
 - 一 恐慌期の無産政党 705
 - 無産政党の離合集散／県内の合法無産政党／合法的政党活動へ／無産団体の選挙運動／治安維持法等による弾圧事件
 - 二 戦時体制期の無産政党 710
 - 社会大衆党への合流／地方議会選挙／東方会／戦時体制期の主要弾圧事件

- 第五節 朝鮮人問題 714
 - 一 昭和恐慌期の朝鮮人問題 714
 - 在任朝鮮人の状況／朝鮮人労働者の争議／融和団体の誕生
 - 二 戦時体制期の朝鮮人問題 717
 - 在任朝鮮人の状況／朝鮮人の戦時労働動員／朝鮮人労働者移入の実態／三重県協和会組織化と朝鮮人の選挙参加／朝鮮人労働者の抵抗／石原産業紀州鉱山
- 第六節 衛生医療 725
 - 一 伝染病の流行と対策 725
 - 1 流行性感冒・法定伝染病と伝染病院等 725
 - 猛威を振るつた流行性感冒／法定伝染病の流行／伝染病院・隔離病舎等
 - 2 結核予防と結核療養所 729
 - 結核診療規程と収容療養／結核予防運動と法改正／結核療養所の設置とその後

3 ハンセン病問題と三重県の対応 733
 「癩予防ニ関スル法律」の制定／県内患者数統計と道府県立療養所／癩予防法改正と国立療養所／療養所入所と無癩県運動等

二 救療・保険制度と医療施設 741
 1 救療事業と各種医療施設 741
 済生会の救療事業と病院／公立病院の変移と新設／診療所・保健所・健民修練所／産業組合病院の創設／軍関係医療施設の拡充

2 国民健康保険法と国民医療法 755
 国民健康保険組合と診療所／日本医療団の県内施設／戦時下の医師会

三 国立公園指定と県観光協会等の設立 759
 吉野熊野国立公園／伊勢志摩国立公園／県観光協会の設立等

第七節 災害

一 風水害・旱害・霜害 767
 県内河川別水災度数の分布／一九三〇年代の風水害／一九四〇～四五年度の風水害／旱害状況と伊賀の対策事業／桑・茶の雪害状況

二 地震 778
 東南海地震の発生状況と被害／東南海地震の応急対策と復興／東南海地震の報道管制／その他

の地震

三 火災と消防組・警防団 786
 一九三〇年代の主な火災／一九四〇～四五年度の主な火災／女性消防隊と常備消防部の設置／消防組から警防団へ

四 交通災害と海難 800
 列車の各種事故／自動車事故の増加／客馬車・荷馬車の事故／三重県籍船舶等の海難事故

第八節 満州移民 809
 満州開拓移民／三重県民の満州移民／青少年の満州送出／難民化する満州移民

第三章 戦争への動員と被害

第一節 兵士の動員と被害 812
 一 満州事変と日中戦争 812
 満州へ出動／日中戦争と歩兵第三十三聯隊／その他の陸軍部隊

二 対米英蘭戦争 816
 三重県兵士の所属部隊／中国戦線／南方戦線／沖縄戦その他

三 三重県の兵士動員数と戦没者数 818
 県民の陸軍兵士動員概数／〔コラム⑦〕プロ野球選手 沢村栄治と西村幸生／復員・戦没者数

と近年の調査

第二節 決戦体制と空襲の被害

本土決戦体制の構築／護京師団の配置／国民義勇隊の組織／防衛計画と避難計画／三重県の空襲被害

826

第三節 戦時下の県民生活

一 住民組織と防空体制の強化

部落会町内会等の整備／防空計画と訓練／防空壕の構築／兵士の見送り・出迎え

833

二 県民の献納活動

県国防協会の設立／飛行機・兵器等の献納／金属類回収と林産物の供出／松根油生産とヒマ栽培

840

三 衣食の配給統制と増産・供出

配給統制の経緯と衣料切符／各種食料の配給統制／県民の食糧増産活動／米穀の供出と食糧管理

848

団

執筆者一覧

口絵目次

1 三重県庁周辺

2 伊勢電鉄 四日市・桑名間開通ポスター

3 伊勢電鉄沿線名所図絵

4 大軌・参急電鉄沿線図

5 軍隊手帳・従軍手帖

6 津市内で発掘された焼夷弾

三重県史

通史編

近現代 2
(下)

目次

凡 口
例 絵

第三部 現代の三重

概況 人口の推移と市郡別人口……………

戦後復興期の県人口／高度成長期の県人口／低成長期の県人口

3

第一編 現代三重の政治・行政

第一章 民主化期の政治・行政

第一節 戦後民主化と地方自治制度の確立……………

一 占領軍の「民主化」と本県への進駐……………

二 戦後の地方自治制度の確立―日本国憲法と地方自治法―……………

次

目

12

12

13

第一次地方制度改革／日本国憲法と地方自治法の成立／機関委任事務の拡張	16
三 自治体警察の誕生	16
警察法／三重県の自治体警察	16
四 行政領域の拡大と県の行政機構	18
県の行政機構の変遷／戦後初期の福祉政策	18
第二節 戦災復興計画	21
一 戦災復興都市計画の実施	21
焦土と化した都市／特別都市計画法の制定	21
二 三重県下の戦災復興計画	22
津市の戦災復興計画／四日市市の戦災復興計画／宇治山田市の戦災復興計画／桑名市の戦災復興計画／非戦災都市の都市計画事業	22
三 戦災復興計画の効果と問題	29
反対運動の発生／非戦災地域の整備／計画の縮小・修正・挫折等／事業の終了	29
第三節 議会と政党	33
一 政党の結成	33
全国の政党状況／公職追放／県内の政党状況	33
二 戦後初の衆議院総選挙	34
三 知事選挙（第一・二回）	35
官選知事／第一回知事選挙／第二回知事選挙	35
四 県議会議員選挙と党派	37
1 第一回県議会議員選挙（一九四七年四月）	37
参事会の代行と選挙結果／新会派の結成	37
2 第二回県議会議員選挙（一九五一年四月）	38
農政会の結成／火曜会の結成	38
第四節 財政	40
一 税財政制度の変遷	40
戦後の地方経費の膨張と税財政制度／四六～四九年の地方税制改正／財政平衡交付金／シャウブ税制	40
二 税収の推移	42
基幹的な税／その他の税	42
三 歳入の推移	45
四 目的別経費の推移	46

第二章 復興期の政治・行政

第一節 復興期の行政

一 対日占領政策の転換と地方自治法改正 49

二 警察予備隊部隊の久居配置と伊良湖岬試砲場反対運動 51

 予備隊部隊の久居配置／試砲場反対運動

三 府県警察の創設 52

四 町村合併 53

町村合併の背景／町村合併促進法／新市町村建設促進法／町村合併の実態／町村合併の紛糾事
例

第二節 宮川総合開発と四日市港の整備

一 特定地域総合開発計画と宮川総合開発構想 59

特定地域総合開発計画／宮川地域総合開発構想の形成／宮川総合開発事業の始動

二 木曾特定地域総合開発計画と伊勢湾臨海工業地帯構想 64

終戦直後の四日市港／伊勢湾臨海工業地帯構想／四日市周辺での工業立地条件の整備

第三節 議会と政党

一 五五年体制の成立と県内政党の動き 69

五五年体制の成立／県内の政党再編

二 知事選挙（第三・四回） 70

田中知事の誕生／田中知事の再選

三 県議会議員選挙と党派 72

1 第三回県議会議員選挙（一九五五年四月） 72

第三回県議選／自民党と農政会の連携

2 第四回県議会議員選挙（一九五九年四月） 73

第四節 財政 75

一 シャップ税財政制度の改正 75

地方税制改正／道路特定財源／地方交付税の成立／義務教育費国庫負担金の復活

二 地方財政の危機と財政再建法 77

地方財政再建促進特別措置法／財政再建の状況

三 三重県における財政再建 79

財政赤字の発生／超過課税と法定外普通税の創設

四 三重県財政の推移 80

税収の推移／歳入／目的別歳出／性質別歳出

第三章 高度成長期の政治・行政

第一節 田中覚知事と開発行政

一 田中県政と開発政策の推移

第一期田中県政の展開／第二期田中県政と伊勢湾台風・チリ津波／長期経済計画と総合開発本部／県庁舎新築

二 開発の広がりとは軋轢

四日市コンビナートの形成／公害問題の発生／宮川総合開発の進展／尾鷲火力発電所の誘致

第二節 地域開発と公害

一 曲がり角に立った開発政策

芦浜原発誘致問題／四日市公害問題の深刻化と公害裁判／公害対策の開始

二 公害・環境対策の抜本的強化

公害裁判の衝撃／公害防止対策の強化／患者救済制度の拡充／地域格差と新総合計画の策定

第三節 議会と政党

一 民社党・公明党の登場

民社党／公明党

二 知事選挙（第五～七回）

第五回知事選挙／第六回知事選挙／第七回知事選挙／田中知事の辞職

三 県議会議員選挙と党派

1 一九五九年県議選以降の動き

民社党と県政同志会／自民党と農政会との合同

2 第五回県議会議員選挙（一九六三年四月）

3 第六回県議会議員選挙（一九六七年四月）

4 第七回県議会議員選挙（一九七一年四月）

第七回県議選／無所属クラブ（三教組）

第四節 財政

一 開発行政を支える財政構造

開発行政／財政構造

二 収支の状況

三 税収の状況

税制改正／税収構成

四 歳入の状況

五 歳出の状況

性質別歳出／普通建設事業費

六 地元超過負担

第四章 安定成長期の政治・行政

第一節 田川知事の県政	134
一 田川県政の発足	134
第八回知事選挙	134
二 長期総合計画	136
魅力ある福祉三重	136
三 福祉行政の展開	137
1 医療費助成制度	138
老人医療費無料化／医療費助成	138
2 医療・福祉	140
保健医療圏／社会福祉施設の整備	140
四 自然と環境の保護	140
国環境基準を上回る総量規制／公害防止事業の実績／環境影響評価／産業廃棄物処理指導要綱	140
／自然環境保全条例	140
五 地域開発	144
1 中南勢開発と松阪中核工業団地	144
松阪中核工業団地	144
2 過疎地域の振興	145
過疎法による地域指定／三重県による準過疎地域対策	145
六 資源・エネルギー政策	146
1 長良川河口堰	146
建設事業差止訴訟／紛糾した利水負担金問題／水資源対策基金の設置	146
2 芦浜原発	148
四原則・三条件／再び活発になった原発推進の動き／県議会による原発推進決議	148
七 世界祝祭博覧会	150
第二節 議会と政党	154
一 知事選挙（第九回～一二回）	154
全与党体制を確立した田川知事／反原発の批判票が表れた第一二回選挙	154
二 新自由クラブ三重県連合結成	155
新自由クラブ結成／新自由クラブ三重県連合	155
三 県議会の動き	156
政党別獲得議席数／自民党議員団の二会派への分割／民主クラブ	156
第三節 地方財政危機と行財政改革	161
一 石油危機後の財政危機	161

超過課税の導入／県債管理基金

二 国庫補助率削減と行財政改革 162

 第二臨調と行革路線／国庫補助率の削減／財政の非常事態宣言／部制・行政組織の見直し／行
政改革大綱

三 情報公開・県庁舎整備 165

 情報公開条例／議会棟の整備

四 県財政の特徴 166

 抑制された歳出規模／地方債の増加／人件費の抑制と民生費の増加／地方債と積立金

第二編 現代三重の産業・経済

第一章 戦後復興期の産業・経済

産業概況と博覧会・開拓

一 産業概況 170

二 博覧会の実施と戦後開拓 172

 平和博覧会等の開催／三重県の戦後開拓事業

第一節 農林水産業

一 農地改革と農業復興 185

 農地改革とその影響／改革現場の悲喜こもも／自作農創設による生産意欲／農地改革がス
ムーズに遂行された理由／食糧増産と農業復興／食糧難を緩和する方策／供出の問題点と工夫
／農業技術の発展による貢献／副業奨励による経済復興／農業会解散に伴う再編成／四Hクラ
ブの希望／農業改良を引っ張る組織と技術

二 戦後復興と林業 199

 森林の荒廃／植林政策の第一歩／森林組合の再出発／朝鮮特需と林業・木材業界／木材生産
破局から回復へ／燃料革命直前の木炭生産／林業の一斉全国調査

三 水産業の復興 207

 戦後直後の状況／漁業制度改革と県漁業の変化／五ポイント計画と漁区の拡張

第二節 工業

一 復興期の工業概観 218

 工業生産指標／各地域の特色／軍需工場の民需転換／ドッジ不況から朝鮮特需へ／工場の誘致

二 繊維工業の復興 224

三 石油化学工業 226

 石油化学工業の復興／海軍第二燃料廠の払下げ

四 地場産業の動向 228

陶磁器製造業／鋳物工業／木材工業

五 電力

230

第三節 商業

一 商店街の復興

戦時体制の終焉と商業／物価統制と闇市／商業の復興と商店街診断

233

二 商工会議所の再建

商工経済会の解体と商工会議所の再建／商工会議所法の制定

238

三 金融機関の再建整備

戦後インフレと預金封鎖／戦時補償の打切りと金融機関の再建整備／相互銀行と信用金庫の設立／救国貯蓄運動と貯蓄増強運動

240

四 観光業の復興

伊勢志摩国立公園の指定／平和博覧会と鳥羽みなとまつりの開催／日本観光地百選と赤目滝

246

第四節 交通・通信

一 道路整備とバス事業の復興

県内の自動車と道路状況／三重交通と県内のバス事業

252

二 復興期の鉄道交通

戦後鉄道の混乱と闇市場の繁盛／国鉄の設置と紀勢線の工事再開／戦後の三重交通鉄軌道事業

254

三 港湾の整備と海上交通の復興

／新生「近畿日本鉄道」の誕生
県内港湾と物資の輸移出入／四日市港の特定重要港湾指定／巡航船による旅客移動

259

四 通信事業の復興

郵便事業の復興／電信電話事業の復興

261

第二章 高度成長期の産業・経済

産業概況

265

第一節 農林水産業

268

一 農業の近代化

農業近代化助走期／畜産振興／松阪牛ブランドの源流／五〇年代後半の水稲生産技術の特徴／農業近代化・生産拡大と格差／農業構造の改善／パイロット協業経営／稲作機械化体系の確立／茶業の発展／農業農村整備の充実と課題／多頭飼育化と畜産公害／ヤマギシズム農業の評価／農業依存度の低下と農業所得の向上／農業生活の向上／農家生活の激変と農村

268

二 高度経済成長と林業

林業の基本問題答申／構造政策の展開／入会林野の整備／大山林家の経営の近代化／高度成長と木材産業・林業

284

三 高度成長期の水産業	292
構造改善事業と三重県漁業／沿岸漁業の構造変動／災害と環境問題／沖合・遠洋漁業の発展	
第二節 高度成長期の工業	304
一 高度成長期の工業の概観	304
工業生産指標／各地域の特色／工場誘致の開始と終了	
二 石油化学工業	308
第一コンビナートの形成・操業／第二コンビナートの形成・操業／第三コンビナートの形成・操業	
三 機械工業	313
電気機械器具／自動車	
四 繊維工業と地場産業	316
繊維工業／地場産業・万古焼の増産／地場産業・鉄鉄鋳物業	
五 電力業	321
第三節 商業・金融・観光	325
一 流通の近代化と商店街	325
百貨店法の廃止と復活／百貨店の進出と商店街／岡田屋からジャスコへ／三重交通の小売業への進出／大型店の伸張と商店街	
二 高度成長期の金融	331
抑制的店舗行政とその緩和／銀行の県外進出と本店の移転／預金・貸出の拡大と銀行の大衆化／金融の効率化と金融二法の制定	
三 観光開発の進展	336
観光業の振興／真珠島と志摩観光ホテルの開業／御在所ロープウェイの建設／伊勢志摩の観光開発の進展／近鉄による伊勢志摩の総合開発／長島の観光開発	
第四節 交通・通信	346
一 自動車の増加と道路交通の発展	346
自動車の増加と交通問題／道路整備と高速道路網／県内バス事業の発展と展開	
二 高度成長期の鉄道交通	350
四日市・津民衆駅の設置／関西本線の電化／伊勢湾台風と近鉄名古屋線の改良／鈴鹿線延長と伊賀線の一部廃止／鮮魚列車／近鉄の輸送力増強と東海道新幹線対策／近鉄へ移行後の鉄道線／鳥羽線建設と志摩線改良	
三 港湾整備とコンテナ船・フェリーの就航	360
四日市港の外国貿易／四日市港の港湾整備と管理組合の設立／津・松阪港と尾鷲港の重要港湾指定／フェリーの登場	
四 郵便・電話事業の発展	364

第三章 低成長期の産業・経済

産業概況

第一節 農林水産業

一 農業

農産物自由化の進展と農業の変容／米等の生産調整と農家経済／農業後継者・担い手不足への対策／赤塚植物園の隆盛／農産加工から六次産業化へ／六次産業化の芽生え―モクモク／伊賀における有機農業の芽生え／農業後継者問題

二 林業の衰退と森林環境の重視

厳しき増す森林経営／森林保全への大きな流れ／全国植樹祭の開催／持続可能な森林経営に向けて

三 水産業の展開と水産資源管理

オイルショックと県の遠洋・沖合漁業／海面養殖業の発展から停滞へ／二〇〇カイリ問題と水産資源管理

第二節 工業

オイルショックと県内の工業／繊維産業の縮小と転換／造船不況と地域への影響／中小零細企

業の淘汰／省エネ運動と省エネ技術の導入・開発／重化学工業の低迷と産業調整／自動車・電気機械産業の成長／工業団地・中小企業団地／地域別の工業活動の推移／地場産業の展開

第三節 商業・金融・観光

一 大型店の伸張と商店街

大規模小売店舗法の成立／大型店の出店と商業調整／流通近代化と商業近代化地域計画／大法改正と郊外大型店の伸張／大法法の規制緩和と都市間競争／中心商業地からの大型店の撤退

二 低成長下の金融

低成長への移行と金融構造の変化／新金融効率化と銀行法の改正／金融の自由化と国際化／相互銀行の普通銀行への転換

三 サービス業（観光業）

ゴルフ場の増加と開発指導要綱／県企業庁による観光開発／熊野灘レクリエーション都市構想／三重サンベルトゾーン構想／サンベルトゾーン構想の明と暗／ゴルフ場開発の規制緩和と再

規制

第四節 交通・通信

一 道路交通網の整備とバス事業の発展

乗用車の普及と交通事故対策／道路の整備と県道路公社の発足／バス事業の展開と路線廃止

二 名松線の存続と伊勢線の第三セクター化

名松線の存続運動／国鉄伊勢線の第三セクター化／伊勢鉄道の開業
 三 四日市港の貿易振興とフェリーの動向 449

四 郵便事業の転換と通信事業の自由化 451

郵便事業の展開／通信技術の高度化

第三編 現代三重の教育

第一章 復興期の教育

第一節 戦後の教育改革と民主化 456

敗戦と三重の教師／敗戦と子ども・青年／新教育の模索／教育施設の戦災と再建／食料増産と
 校庭の耕地化／戦時措置の廃止と学制の復旧／墨塗教科書、軍国主義の払拭／御真影・奉安殿
 の処理／教育勅語の処理／女子教育の刷新、曉女子専門学校／青年学校の振興と青年師範学校
 ／三重軍政部の学校視察／教員適格審査と教職追放

第二節 六・三・三制の実施 472

新制中学校の構想と準備／教育振興委員会と新学制実施準備委員会／新学制実施協議会の再組
 織／新制中学校の発足／新制高等学校の設置／学区制と総合制／特権的中等教育の否定／男女

共学

第三節 教育委員会と教職員組合 481

県教育委員の選挙／教育長と教育委員会事務局／地方教育協議会／軍政部の教育分権化構想／
 地方教育協議会の活動／地方教育委員会の発足

第四節 新学制の課題 487

幼稚園と保育所／欠食児童と学校給食／脱脂粉乳のユニセフ給食／不就学・長欠児問題／上野
 市の夜間中学／農村地域の青年教育／へき地教育の課題／臨時教員養成と三重大学木本分教室
 ／朝鮮人学校問題

第五節 戦後の新教育実践 497

戦後初期の地域カリキュラム／中川・菟野・四日市プラン／三重県基底カリキュラム／四日市
 幼稚園保育課程／実験学校の設定／社会科の登場／中学校職業科／ホームプロジェクト／家庭
 クラブ・農業クラブ／活発な生徒自治会／学校新聞

第六節 盲・聾学校の義務化と特殊学級の創設 508

盲・聾学校の分離と義務化／特殊学級の開設／教護院・国児学園

第七節 新制大学の発足 511

県立医専の存続問題／県立医専の大学昇格／私立三重水産専門学校／新制県立大学の発足／農

専の阪大統合構想／三重大学学芸学部／神宮皇學館の廃止／短期大学の発足

第八節 社会教育の民主化

一 社会教育の振興と公民館

社会教育の振興／公民館の設置と活動

二 図書館と博物館

図書館の再開／県立博物館の誕生

三 青少年団と女性・青年教育

青少年団の動向／女性教育の振興／青年教育の振興

四 スポーツの振興

競技会や協会等の復興／県体育協会の設立と県民体育大会の開催／国体への出場と県民の活躍

第二章 高度成長期の教育

第一節 教育行政の変容

高度成長期の教育政策／公選制教育委員会から任命制へ／教育委員会の再出発／教員の勤務評定問題／勤務評定の実施／全国一斉学力テスト

第二節 教育条件整備の進展と諸問題

三重県長期経済計画と教育／第二次長期計画と教育の現状と課題／三重県教育研究所の設置

幼稚園の整備／同和教育行政の発展／へき地教育の振興／学校統廃合の進展／合生中学校廃校紛争／橋北中学校水難事故／伊勢湾台風と学校／校舎の鉄筋鉄骨化／修学旅行とこまどり号

第三節 教育課程の変化と教育実践の展開

学習指導要領の改訂／特設道徳／三教組の教研活動／地域に根ざす教育実践／員弁の農民学校／同和教育実践の諸相／教育の現代化と詰め込み教育

第四節 高等教育の変容と多様化

伊勢高校の設置と男女別学／通学区の拡大／普通科コース制の導入／高校生急増対策／高校全入運動／能力主義的再編と多様化／高校入試と業者テスト／高校増設／私立高校の設置／愛農学園農業高校

第五節 障がい児教育の進展と就学権の保障

特殊教育の促進と分校の設置／養護学校の新設と就学権保障の拡大／特殊学級の増加と啓発・連携の動き／盲・聾学校の校舎新築

第六節 高等教育制度の再編成

学芸学部の教育学部への改称／総合農学科から農業機械学科へ／三重大工学部の新設／大学院医学研究科の設置／県立大の国立移管／神宮皇學館の再興運動／皇學館大学の再興／短大制度の恒久化と短大の増設／鈴鹿高専の創設／鳥羽商船の高専昇格／学生運動と学園紛争／高専・高校の学生運動・政治的活動

第七節 社会教育

一 社会教育の集権化と施設の状態

社会教育の変容と公民館の統廃合と青年の家の建設／図書館と博物館の状況

594 594

二 青年団の変容と青年・婦人学級

青年団活動の転換／青年・婦人学級活動の変動

597

三 スポーツの振興

国体誘致運動とスポーツの振興／高校野球全国大会出場と初優勝／県内開催の駅伝大会

599

第三章 安定成長期の教育

第一節 社会の変容と県の教育政策

「豊かさ」の中の教育問題／魅力ある福祉三重づくり／通勤・通学圏の拡大／第二次三重県長

603

期総合計画／学校教育問題検討委員会／外国人英語指導者の導入／教員研修の充実／総合教育

センターの整備

第二節 国の教員政策と三教組の運動

給特法と教員の超勤問題／三教組の超勤訴訟／超勤四項目／教員人確法の制定／教頭職法制化

610

と主任制の実施

第三節 荒れる生徒・揺れる学校

614

ゆとり教育への転換／学習塾の実態／中学校集団暴力事件／県教委の緊急非行対策／いじめ問題／不登校生の増加

第四節 高校の大衆化と入試改革

学校群制の導入／学区協定による進学／七〇年代の高校増設／第二次ベビーブーマー対策／魅力ある高校づくり／推薦入学の実施／高校中退問題

620

第五節 養護学校の義務化と充実

養護学校の義務化と学校・分校等の設置／訪問教育の開始と高等部の設置／特殊学級の充実／

626

国児学園への学校教育導入の動き

第六節 高等教育の拡充

県内大学の収容力問題／三重大文科系学部の設置要請／文科系新学部構想／人文学部の発足／

629

生物資源学部の設置／私立大学の簇生

第七節 社会教育の転換

社会教育から生涯学習施策へ

636

生涯教育の再構成と生涯学習／少年自然の家と公民館等／公共図書館と博物館の増加

636

二 青年団と青少年教育行政

青年団女子部の飛躍／青少年ふるさと運動／希望の電話と母さんテレホン

639

三 国体の開催と生涯スポーツの振興

640

目次
第四編 現代三重の文化

第一章 復興期の文化

第一節 新聞・雑誌・ラジオ

占領下の出版とGHQの検閲／ブランゲ文庫に見る県内出版物／文化活動の活発化と文化団体の誕生／ラジオ放送の発展

646

第二節 文学

戦争の爪痕と作家の復員／戦後詩の出版／丹羽文雄と伊藤桂一／中山義秀と津中学ストライキ事件／山口誓子の三重／同人誌の叢生

651

第三節 演劇

青年団の演劇活動と地芝居の復活／新劇と自立劇団の創設／高校演劇の萌芽／澤井余志郎と新劇の集団創作

657

第四節 映画

戦後の映画興行／三重県政ニュース映画／戦後の衣笠・小津と県出身の映画人

664

第五節 芸能

戦後の伊勢音頭／復興期の興行／ラジオの人気番組／お笑い番組の地方公演

671

第六節 美術

三重県美術協会／洋画

679

第七節 音楽

音楽活動再開の萌芽／音楽活動の復興

682

第二章 高度成長期の文化

第一節 文学

清水信と同人雑誌センター／三重文学協会と同人誌の叢生

686

第二節 演劇

一 劇場芝居の衰退と文化会館の建設

劇場芝居の終焉／県文化会館の開館と公演の公演

688

二 自立劇団の発展と地域劇団協議会の結成

劇団すがお・劇団四日市の創立／演劇集団MUと劇団津演の登場／劇団上野市民劇場の公演／伊勢青年劇場の誕生／地域劇団協議会の動き

689

三 高校演劇研究会の設立と中部大会への出場

693

第三節 映画

映画全盛期と興行組合の設立／有害興行指定と成人映画／映画離れと経営危機／監督藤田敏八と県ゆかりの映画人

695

第四節 芸能

興行の状況／劇場の動向／地方在住興行師の動向

703

第五節 美術・書道

洋画／現代社会と美術

706

第六節 音楽

音楽愛好家のけん引と発信／音楽文化向上への動き

712

第三章 安定成長期の文化

第一節 文学

生方たつゑと山中智恵子／同人誌の活動／「コラム」紀伊半島の文学―三重県を視座に―

714

第二節 演劇

一 文化施設の充実と自立劇団・群衆劇の展開
文化施設の増加と県総合文化センター／自立劇団の記念公演／劇団の国際交流／劇団津演の巡回公演／新劇団の登場／伊勢青年劇場の再生／野外音楽群衆劇・斎王夢語

718 718

二 全国高校演劇大会への飛躍

全国高校演劇大会への出場／創作脚本の盛況

723

第三節 映画

半額デーと多様なサービス／ミニ・シアターの出現とシネコン時代／小津の顕彰と県ゆかりの映画人

725

第四節 芸能

文化・芸能活動の多様化／国民文化祭と県民文化祭

730

第五節 美術

県立美術館／県内の美術館と財団

733

第六節 音楽

全国的行事へ官民一体による参加／合唱の隆盛と三重音楽祭の意義

738

第五編 現代三重の生活と社会

第一章 戦後復興期の生活と社会

第一節 終戦直後の県民生活

742

一 衣食の配給統制と増産・供出 742
衣料の配給統制／食料の配給統制／食糧増産と米穀の供出

二 戦災者住宅の復興と復員・引揚者 749
戦災者住宅の緊急復興／復員関係事務と復員状況／海外引揚者の状況とその援護

三 失業者対策と生活保護 760
職業補導と失業者対策／生活保護法の適用と事務

四 住民組織改廃と右側通行・サマータイム 765
町内会部落会等の廃止／歩行者の右側通行／サマータイムの実施と廃止

第二節 労働運動 770

労働組合の結成と連合体／労働委員会の発足とメーデー復活／労働争議の増加／二・一ゼネストとレッド・パージ

第三節 農民運動 776

日農と全農県連の結成／農民運動と花岡事件／農民運動の衰退

第四節 部落解放運動 780

部落解放団体の再建と県行政の動き／部落解放運動と差別事件

第五節 その他の社会運動 784

一 女性運動と女性の進出 784
婦人会や労働組合婦人部の設立／政治・教育界での女性の進出

二 朝鮮人の帰還と在日朝鮮人問題 788
朝鮮人の帰還／在日朝鮮人問題

三 明野飛行場復活の反対運動 789

第二章 高度成長期の生活と社会

第一節 労働運動 791

労働組合の増加と中立労連の結成／労働運動の展開と労働者福祉／労働組合と県政

第二節 同和問題 796

部落の実態と解放運動／同対審の設置／同対審答申と特別措置法／県の同和対策／同和教育への取組

第三節 女性・外国人問題 801

一 女性団体と女性問題 801

女性の活躍と地位向上の動き／女性差別の解消と家事労働の軽減

二 外国人問題 804

第四節 平和運動と環境問題 806

一 平和運動……………	806
原水爆禁止運動／安保闘争／平和・友好運動／基地反対運動	
二 四日市公害反対運動と公害訴訟……………	809
伊勢湾の漁業被害と反対運動／四日市公害訴訟と公害反対運動	
三 芦浜原子力発電所設置問題……………	813
四 文化財と自然環境保護運動……………	815
文化財保護と行政による発掘調査／自然環境保護運動	

第三章 安定成長期の生活と社会

第一節 労働運動……………

労働組合と労働争議の展開／三重民労連と連合三重の結成

819

第二節 人権問題……………

一 同和对策の展開……………

地域改善事業／県同和教育基本方針の策定

821

821

二 男女共同参画への動き……………

女性の地位向上への動き／アイリスプランと県女性センターの開館

822

三 外国人問題……………

824

四 人権県宣言……………

指紋押捺拒否運動／就労外国人の増加

825

第三節 環境問題と文化財・自然保護運動……………

一 四日市公害反対運動……………

公害患者救済と財団の設立／法に基づく補償と財団の解散／公害対策の後退と地域指定解除／油流出や悪臭問題

827

827

二 芦浜原発問題の再燃と反対運動……………

紀勢町長の交代と原発受入れ／漁協の反対運動と推進派の台頭

830

三 文化財の保護……………

文化財と自然を守る会による保護運動／斎宮跡の保存／文化財の緊急調査と保存事業

833

四 自然環境保護運動……………

ゴルフ場反対運動と水資源保護／長良川河口堰反対運動／合成洗剤追放運動

836

おわりに

執筆者一覧

協力者一覧

あとがき

口絵目次

- 1 四日市石油コンビナート
- 2 四日市石油コンビナート 夜景
- 3 東名阪自動車道建設途中・亀山北部
- 4 名阪国道・伊賀駐車場
- 5 三重県立美術館
- 6 斎宮歴史博物館
- 7 三重県総合文化センター
- 8 三重県総合博物館
- 9 第30回国民体育大会(三重国体)開会式
- 10 まつり博・三重'94会場